

## 成果指標の進捗状況

基本 目標	指標	マスタープラン 策定時	現状値	目標値[H32]
住宅確保要配慮者の居住の安定確保	市営住宅空き家募集戸数	751 戸 (H22)	900 戸 <sup>※3</sup> (H26)	現状水準 (800 戸程度) を維持
	共同住宅のうち、道路から各戸の玄関まで車いす、ベビーカーで通行可能な住宅ストックの比率	15.1% (H20)	16.1% (H25)	28.0%
	最低居住面積水準未満率	4.4% (H20)	4.2% (H25)	早期に解消
安心して住み続けられる住宅ストックの形成	一定の省エネルギー対策 <sup>※1</sup> を講じた住宅ストックの比率	86.7% (H20)	87.0% (H25)	90.0%
	新築戸建住宅の「札幌版次世代住宅基準」達成率	平成24年度末 制度創設予定	19.8% (H26)	100% <sup>※4</sup>
	高齢者（65歳以上）の居住する住宅の一定のバリアフリー化率 <sup>※2</sup>	36.0% (H20)	39.7% (H25)	75.0%
	リフォーム実施戸数の住宅ストック戸数に対する割合	3.0% (年間) (H20)	3.3% (年間) (H25)	8.0% (年間)
	滅失住宅の平均築後年数	22.5 年 (H20)	26.4 年 (H25)	40 年
住環境の形成	住宅及び住環境に対して満足している市民の割合	71.3% (H15)	82.1% (H25)	80.0%

※1 一定の省エネルギー対策：全部又は一部の窓に二重サッシ又は複層ガラスを使用すること

※2 一定のバリアフリー化：2箇所以上の手すり設置または屋内の段差を解消すること

※3 募集戸数については近年900戸程度を推移している

※4 目標値は「札幌市温暖化対策推進ビジョン」による。なお、平成27年3月に計画の改定が行われており、計画名称を「札幌市温暖化対策推進計画」に変更している